

## ■今月の特選句

2015年12月

## 夜話や口滑らせる臍の疵

都吐夢

「落とし穴話上手とおだてられ消しゴムきかぬことをぺらぺら」「武勇伝いつの間にやら懺悔談」「もの言えば叩けばなにやら告白調」。

## 捨案山子人の世の中こんなもの

高田敏男

俺と同じようなシャツを着て他人事と思えないね。もの言えぬ案山子を突然解雇するとは残酷なことだが、案山子も非正規雇用だからね。

## 秋行くや七人の敵六人に

下嶋四万歩

「七人の敵懐かしき定年後」ですか。お一人が一足先に逝ったのですね。今となってみれば良い思い出。あの世で集まった時のプランを立てて遊ぼう。

## 口よりも顎でもの言ふ懐手

田村米生

鶏口となるも牛後となるなかれ。奥さんの言いなりのままになるか、自主独立を第一に家を出るか。えっ、懐手は田村さんでしたか失礼しました。

## 頭数揃えて正義文化の日

菅野あたる

多数決、それが民主主義の正義。気が付いた時には既に決まっていて、どうすることも出来ぬ悔しさ。「まず決めて後から説明する政治」。

## 木枯も二番は無視と蔑まれ

奥脇弘久

二番では駄目なんですよ、蓮舂さん。「愛人を二号と呼ぶは懐かしきレトロの響き今は死語なり」。ここで一句。「木枯の一号二号さんに吹く」。

## ■今月の秀逸句（・・・七七をつけてみました）

昭和のくらし障子の穴のなかにある  
・・・丸いちゃぶ台真空管ラジオ

梅岡菊子

句を捻り出す度散りぬ木の葉髪  
・・・それじや俳人みんな禿頭

川島智子

憂国忌三島望みし世となりし  
・・・結局あれは何だったのか

伊藤浩睦

広告の裏に字を書く文化の日  
・・・もつたいないも日本の文化

飯塚ひろし

品格を隠してしまふ赤い羽根  
・・・赤い羽根なら品性問わず

白井道義

七五三主役は子どもいや晴れ着  
・・・主客転倒子は添えものに

花岡直樹

馬の脚もうばんばんや秋祭  
・・・馬にも少し飲ませてやれよ

山本 賜

体育の日スポーツ番組観て過ごす  
・・・ははあんそれは目のスポーツだな

久我正明

熟れ柿のまだ落ちぬかと鬼刑事  
・・・落すことなどお手のものだろ

小林英昭

季語入れて俳句簡単五七五  
・・・滑稽の句はそうはいかんぞ

酒井鹿洋

**一切れの試食客釣る梨街道**

・・・甘い汁吸う店のオジサン

寿命秀次

**風呂吹も舌頭千転して俳句**

・・・大根に飽き豆腐にするか

加川すすむ

**どんぐりの袴お椀の舟となる**

・・・童心がいい笠政人君

笠 政人

## ■今月の滑稽句

- |      |   |                         |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | あの世へは手ぶらで逝こうおけら鳴く<br>美術の秋ほとんど解せぬピカソ展<br>姫君を身ぐるみ剥がす老菊師 | 青木輝子<br>青木輝子<br>青木輝子    |
|      | 天心へ強まる碧や秋日和   | 青山桂一                    |
| 【佳作】 | 田が野へとふへていやます草紅葉<br>切岸の灯台しかと秋日受く                       | 青山桂一<br>青山桂一<br>青山桂一    |
| 【佳作】 | 一体だけ強ばつてをり菊人形<br>余命一年と言はれて五年猫じやらし<br>古稀過ぎの男十人十六夜へり    | 赤瀬川至安<br>赤瀬川至安<br>赤瀬川至安 |
|      | 赤子のあどけなさに勝れる花野かな                                      | 秋月裕子                    |
| 【佳作】 | あんなにも輝いて散る人も葉も<br>障害者(しょうがいしゃ)もファッションショーを冬桜           | 秋月裕子<br>秋月裕子<br>秋月裕子    |
|      | 曝すのが快感なのかも鴟の贅   | 麻生やよひ                   |
| 【佳作】 | 稲雀一匹狼などをらず<br>鬼の子とは名ばかり引つ込み思案らし                       | 麻生やよひ<br>麻生やよひ<br>麻生やよひ |
|      | 寝惚け顔大根擦りつつ覚ましけり                                       | 有富洋二                    |
| 【佳作】 | 酔ふほどに湯豆腐踊り続けたり<br>鯛焼の冷めぬうちにとみんな食ふ                     | 有富洋二<br>有富洋二<br>有富洋二    |
|      | 懸大根年寄り増やす山の村  | 飯塚ひろし                   |
| 【佳作】 | 枯れ過ぎて螻蛄我を忘れけり   | 飯塚ひろし                   |
| 【佳作】 | 自然薯の髭と思ひき眉毛かな<br>会ひにゆく服に放屁の放屁虫<br>銀杏を拾ふてまでは食べはせぬ      | 井口夏子<br>井口夏子<br>井口夏子    |
|      | ジャズロックとどのつまりのよさこい節                                    | 池田亮二                    |
| 【佳作】 | 秋深し来賓祝辞果てもなし  | 池田亮二                    |
|      | 各駅に停まる特急雪の富士  | 伊藤浩睦                    |
| 【佳作】 | 念仏に馬が耳折る報恩講   | 伊藤浩睦                    |
|      | 熱爛のチンの目盛りは門外秘   | 伊藤洋二                    |
|      | 重ね着に社会の窓は暴かれず   | 伊藤洋二                    |
| 【佳作】 | 小用に宇宙も震ふ冬銀河   | 伊藤洋二                    |

- |      |   |                      |
|------|---|----------------------|
|      | 音もなく秋の風鈴ありぬべし                                     | 稲沢進一                 |
| 【佳作】 | 古書店の角に丸椅子文化の日<br>芒野や真実我はひとりなり                     | 稲沢進一<br>稲沢進一         |
|      | 運動会挨拶済めば帰る市議                                      | 井野ひろみ                |
| 【佳作】 | ハローウィン仮装せずともママは魔女                                 | 井野ひろみ                |
| 【佳作】 | 耳の奥まで蓑虫の葉をかじる音<br>木枯にスカートめくりされてゐる<br>蜂が来た満員電車の吊革に | 上山美穂<br>上山美穂<br>上山美穂 |
| 【佳作】 | 学期末押しくらまんじゆうして別る<br>人の世は何かと忙し暮の猫<br>会ふ度に齢問はるる年の暮  | 氏家頼一<br>氏家頼一<br>氏家頼一 |
| 【佳作】 | 陽の色を煮つめたのです吊し柿<br>俗世に転げ出でたどんぐりよ                   | 梅岡菊子<br>梅岡菊子         |
|      | 呆うけしはわが意にあらず生身魂<br>文化の日腓(こむら)返りに目覚めけり             | 越前春生<br>越前春生         |
| 【佳作】 | 機知失せし齢となりて木の実受く                                   | 越前春生                 |
| 【佳作】 | 煮え切らぬ芋の愚痴聞くおでん鍋<br>小用を足してる肩に赤蜻蛉<br>むつつり屋忘年会の隠し芸   | 岡野 満<br>岡野 満<br>岡野 満 |
|      | うちの柿全部渋なの升さん                                      | 小川鈍太                 |
| 【佳作】 | 庭雀踊りを忘れ蛤に<br>眼科だけで病名三つ秋深む                         | 小川鈍太<br>小川鈍太         |
| 【佳作】 | 天気図に早お目見得の雪だるま<br>湯豆腐や一年ぶりを懐かしむ                   | 奥脇弘久<br>奥脇弘久         |
| 【佳作】 | 焦げ痕の時効成立昼替へ<br>ラグビーの俄ファンなる妻が添ふ                    | 加川すすむ<br>加川すすむ       |
| 【佳作】 | 行く秋のドスの利きたる古時計<br>コスモスになってしまった車椅子                 | 笠 政人<br>笠 政人         |

	手爪先脂(やに)でべとつく松手入 松脂で手爪先真つ黒松手入	門屋佐多務 門屋佐多務
【佳作】	チクチクと松葉に刺され松手入	門屋佐多務
	異星人地球を愛でる夜長かな トンネルの出来て山霧楽覚ゆ	金澤 健 金澤 健
【佳作】	美魔女なる新語生まれて残る菊	金澤 健
	殊勝にも仏壇で鳴く鉦叩	川島智子
【佳作】	大根も大根役者もいとほしむ	川島智子
	甘いもの控えて勤労感謝の日	菅野あたる
【佳作】	安全は自己責任で神の留守	菅野あたる
	人がみな多才に見えて文化の日	久我正明
【佳作】	補聴器の要らぬこと聴く秋の暮	久我正明
【佳作】	赤米の稲穂の波の黄金色 啄木鳥の寺の大樹の幹叩く 大銀杏黄色い電車走り去る	工藤泰子 工藤泰子 工藤泰子
	恍惚の邪気無き一言秋うらら 割高と思へど手に取る今年米	小泉花子 小泉花子
【佳作】	兎に角も秋の日無事に暮れにけり	小泉花子
	立つてゐる案山子の足は棒になる	小林英昭
【佳作】	井のちんちろちんと鳴く夜長	小林英昭
	バック入り秋の七草あじけなく	酒井鹿洋
【佳作】	人類は地球にあふれ月めざす	酒井鹿洋
	秋刀魚さん泳ぎ疲れてダイエット	佐藤義子
【佳作】	白鳥がぬきつぬかれつ声変り 血族はおれサギよりも避けれない	佐藤義子 佐藤義子
	残る虫青松虫とちちろのみ 阿字池の澄み鳳凰の四体見え	佐野萬里子 佐野萬里子
【佳作】	神島には信号なくて鷹渡る	佐野萬里子
	数珠玉や以下同文の賞もらふ	下嶋四万歩
【佳作】	洋梨を食べる用なき人もゐて	下嶋四万歩
	内緒事大声に聴く敬老会	壽命秀次
【佳作】	長雨にスーパーに狩る秋味覚	壽命秀次

	取り敢へず柿食うてより考へる	白井道義
【佳作】	一服も勘定の内松手入	白井道義
【佳作】	そうだ私の家にコスモスならあります しゃれた名前のじゃが芋まんまるい エレベーター開く私農婦です	鈴木和枝 鈴木和枝 鈴木和枝
	昨今は鮪もいけすで籠の鳥	高田敏男
【佳作】	取り敢えず三日坊主も日記買う	高田敏男
	貧乏神旅たれぬか出雲路へ	高橋きこの
【佳作】	ハロウィン of 魔女と争うバーゲンセール 手抜かりのなき石垣の灸花	高橋きこの 高橋きこの 高橋きこの
【佳作】	橙のカボチャが笑う灯火かな ハロウィンは西洋の盆かぼちゃ食う 仮装して菓子ねだる子ら秋の宵	高橋マキコ 高橋マキコ 高橋マキコ
	私小説書くなる夜長かな	田中 勇
【佳作】	秋天の遺跡のロマン掘りにけり さはやかなの通天閣を見詰める	田中 勇 田中 勇
	きっかりと決めるサーブや天高し	田中早苗
【佳作】	婆に惚れ逗留長き風邪の神 一人居を好む鴨かやいじめかや	田中早苗 田中早苗
	朝ドラの悪(わる)は姑鬼薊	田村米生
【佳作】	紅葉狩腹の時計が昼を告ぐ	田村米生
	手に取りて眺めまわして大根買う 向かい合ひ話すことなく蜜柑むく	津田このみ 津田このみ
【佳作】	枯れ落ち葉一枚ずつに顔のあり	津田このみ
	あいうえをあの人送る秋の空	土屋泰山
【佳作】	十三里食ひし後にはへ長調 なんてんの揺れてあの口おに転じ	土屋泰山 土屋泰山

- |      |   |                      |
|------|---|----------------------|
| 【佳作】 | 神在やまとめて拝む八百万<br>大器よと言われ続けて冬瓜かな                    | 都吐夢<br>都吐夢           |
| 【佳作】 | 止り木に空席のなき秋灯<br>梯子酒なべて小鉢や新豆腐<br>肩車して柿二つ賜れり         | 飛田正勝<br>飛田正勝<br>飛田正勝 |
| 【佳作】 | 踏んづけばぶつくさ小言落葉かな<br>大根を一本引いてお先です<br>松茸の匂いを嗅ぎに往復し   | 中井 勇<br>中井 勇<br>中井 勇 |
|      | 回転ドアに止まって遊ぶぼったの子<br>新蕎麦や汁たつぷりと悔いはなし               | 新島里子<br>新島里子         |
| 【佳作】 | 襟巻となつて狐は老いにく                                      | 新島里子                 |
|      | 倭人西叫びて落ちる石榴の木<br>林檎食ふ妻はエバだと悟りけり                   | 西をさむ<br>西をさむ         |
| 【佳作】 | 文豪を真似て胡桃を弄ぶ                                       | 西をさむ                 |
| 【佳作】 | 無色なる塔に色塗る紅葉かな<br>立冬も暑さに汗ばむビールかな                   | 花岡直樹<br>花岡直樹         |
|      | 焼茄子や皮剥く指があちちち                                     | 原田 暉                 |
| 【佳作】 | 北風の集まつてゐる鼻頭<br>アメ横を河豚のごとくにふらふらと                   | 原田 暉<br>原田 暉         |
| 【佳作】 | 御籤購ふ誰も善男善女なり<br>血の巡り悪くなりたる厄日かな<br>三文の約束果たす万愚節     | ひがし愛<br>ひがし愛<br>ひがし愛 |
| 【佳作】 | コート着てスカート穿くを忘れをり<br>牡蠣剥き女手八丁に口八丁<br>駆けっこに秀才負かず運動会 | 久松久子<br>久松久子<br>久松久子 |
|      | 花八手以下省略の形して                                       | 日根野聖子                |
| 【佳作】 | 椎の実のマラカス茶封筒振れば<br>電子辞書は喋るのが好き文化の日                 | 日根野聖子<br>日根野聖子       |
| 【佳作】 | すき焼の箸に嘘泣き嘘笑ひ<br>ごきぶりのトイレ覗きに駈らるる<br>野分後の棒のある黙翳浮きぬ  | 藤岡蒼樹<br>藤岡蒼樹<br>藤岡蒼樹 |



- |      |   |                         |
|------|---|-------------------------|
|      | ハロウィーン自分を僕と呼ぶ女  | 藤森荘吉                    |
| 【佳作】 | 年の瀬や捨てるこつてふ本捨てる<br>出来不出来判断つかぬ案山子かな                      | 藤森荘吉<br>藤森荘吉            |
| 【佳作】 | 独り言聞かれてしまい石菫の花<br>ハミングで「星の界(よ)」を唄う秋の夜<br>冷たさをドキンと足の裏にかな | 藤原セツ子<br>藤原セツ子<br>藤原セツ子 |
| 【佳作】 | ハロウィーンに踊らされてる踊ってる<br>鉄杭が届かぬ不安秋時雨<br>松茸は松茸なりしカナダ産        | 細川岩男<br>細川岩男<br>細川岩男    |
|      | 猫抱いて路上生活秋の暮<br>マフラーで己を語るパリジャン                           | 細川寛子<br>細川寛子            |
| 【佳作】 | 石畳枯葉紙くずパリの街   | 細川寛子                    |
|      | 紅葉の四十年ぶりのホテルかな<br>畦を行く刈田の匂ひ胸に吸ひ                         | 松井寿子<br>松井寿子            |
| 【佳作】 | 朝寒の木々の匂ひを愛しむ  | 松井寿子                    |
| 【佳作】 | 湯豆腐に一茶が好きとか嫌いとか<br>幼稚園児ピョピョ騒ぎ息白し<br>年の暮危絵(あぶなえ)の出る古鞆    | 松井まさし<br>松井まさし<br>松井まさし |
|      | 紅葉のひとつ葉ひろいてガム包む<br>布団干す我も干してる頭(かしら)ごと                   | 三橋百笑<br>三橋百笑            |
| 【佳作】 | 箱根路へおいでおいでと芒揺る  | 三橋百笑                    |
|      | 小春日の眠る子だんだん重くなり   | 宮森 輝                    |
| 【佳作】 | 風が息抜くときのあり冬ぬくし<br>十二月ひとりに余る火を炊いて                        | 宮森 輝<br>宮森 輝            |
|      | 冷凍の蜜柑頬ばりはひふへほ<br>雲間より斜に構へたる冬の空                          | 百千草<br>百千草              |
| 【佳作】 | 針通しめっき疎し文化の日  | 百千草                     |
|      | 楠木の下に団栗撒く先生<br>カチカチと柱時計や落ち葉ふる                           | 森岡香代子<br>森岡香代子          |
| 【佳作】 | 秋天にアーチをかけるホームラン   | 森岡香代子                   |
|      | 今朝の冬白庭石の縮こまる  | 八木 健                    |
| 【佳作】 | 牡蠣の字に虫があるのはなぜだらう<br>散り紅葉一枚ゆえの値打ちかな                      | 八木 健<br>八木 健            |

- |      |   |                         |
|------|---|-------------------------|
| 【佳作】 | 七五三祝ふ祖父より五七五<br>中華粥日本にありてクリスマス<br>息白し真つ赤な嘘の白いらし     | 八洲忙閑<br>八洲忙閑<br>八洲忙閑    |
| 【佳作】 | 露けしや水虫人の足を食ふ<br>奢りたる平家は紙魚に破れけり<br>寄せ鍋の栓抜きハート形なり     | 柳 紅生<br>柳 紅生<br>柳 紅生    |
| 【佳作】 | 小春風はしやぎて猫のくりくり目<br>おまけです一万一千円タラバガニ<br>湯豆腐を掬いて吾に添いし猫 | 柳澤京子<br>柳澤京子<br>柳澤京子    |
|      | バツタ踏んで当りのぼつりぼつりかな                                   | 山下正純                    |
| 【佳作】 | 枯草に同化進むや生態系<br>打上げの線香花火秋桜                           | 山下正純<br>山下正純            |
|      | 群れ鴉城山めざし秋の暮   | 山本けい子                   |
| 【佳作】 | 体育日国旗掲げる家二軒<br>秋天へ抜け句碑を読む子等の声                       | 山本けい子<br>山本けい子          |
| 【佳作】 | 雲の名の見本のやうな縹雲<br>聞かれたらおすすめは庄やの焼芋                     | 山本 賜<br>山本 賜            |
| 【佳作】 | 追放をされる心地や敬老日<br>堂々と嘘で固めてクリスマス<br>逆送をしたき心地の師走かな      | 横山喜三郎<br>横山喜三郎<br>横山喜三郎 |
|      | 手を握り愚痴きく介護日脚伸ぶ                                      | 吉原瑞雲                    |
| 【佳作】 | 木枯や肩身の狭き無職欄<br>硬骨の御師猫舌ちゃんこ鍋                         | 吉原瑞雲<br>吉原瑞雲            |